

あなたとさいたまをむすぶ

トロのふるさと

Hometown of "TOTORO"

Mar
2021
No.192

3

埼玉民医連

医療生協さいたま

ワークスタイルマガジン

トロのふるさと
Webアンケート
募集中!
先着5名にQuoカード
プレゼント!



Message from the Doctor

コロナ禍の医療と私たち

医療現場のリアル ~SDH・いのちと向き合う私たち~

「母親からの虐待、仕事も住む家も失った」

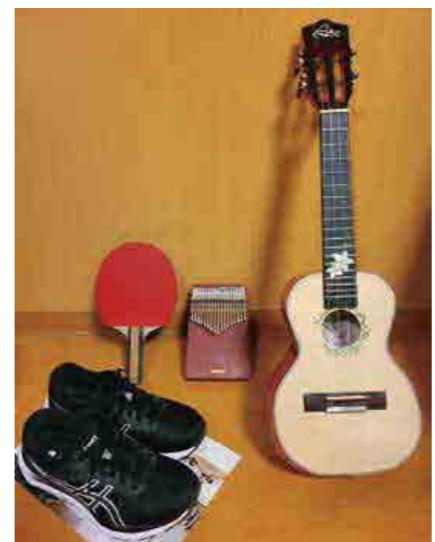
トロのふるさとFriends

第27回 埼玉民医連奨学生交流集会

これから
医師になる
あなたへ

ワークスタイルマガジン
トロのふるさと

〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1317番地 048-296-5822
埼玉協同病院 教育研修センター www.skymet.jp/ デザイン・編集:ハトンプロダクツ株式会社



Doctor's Off Time
ドクターズ・オフタイム

初期研修2年目 瀧井 未来

改めて感じる「おうち時間」の魅力

埼玉協同病院初期研修医2年目の瀧井未来と申します。みなさま、新しい生活様式がうたわれて久る当今ですが、かがお過ごしでしょうか。私は、休みの日はおゆば「おうち時間」でゆっくり過ごしてます。

私のねつち時間のおともを紹介します。まずは「ウクレレ」です。ギターよりも小さく弦が4本と見た田舎цеブルな楽器ですが、なかなか奥が深いんですよ。田舎ゆめうつとけじやなく、ジャズもポップスも何でもこなせちゃうし、どこにも持ち運べる気軽さも備えています。見た目もかわいいですね。値段にして申し訳ないですが、おもにギターやすい楽器のひとつですよ。お試しあれ。

ほかには最近「カラハバ」という楽器を始めました。親指で弾くオルゴールのよつなもので、もとはアフリカの民族楽器だったようだ。かなりマイナーな楽器ですが、あるゲームに登場してから知名度が上昇したんだとか。音色がとても綺麗で、一度聴いたらやみつきですよ。

ほかには、学生時代からやつて居る卓球をもう少しあつたいのですが、それはもう少し熱中してからかな。

最近は同期と人手の少ない夜にジョギングを始めました。なかなか

かかるのよつにはじかないと
も多いですが、いままでの好きなことだけでなく、新しく好きなことを見つけにいくのも楽しみになりました。体の健康だけでなく、心の健康のために、余裕があれば自分の好きなことを振り返ってみると新たな発見や出会いがあるかも知れません。

Information

埼玉協同病院 病院見学

埼玉協同病院では病院見学を受け入れております。見学ご希望の際は、教育研修センター(SKYMET)のホームページよりお申込みください。



進路アンケートにご協力をお願いします

医療生協さいたまではこれまで「医師体験」などの高校生企画にご参加されたみなさんへ、進路アンケートを実施しております。今後の企画運営の参考ならびに、4月以降医学部に進学される方を対象にした企画のお知らせを行っております。ぜひご協力ください。



高校生と医師のオンライン座談会(3/22~4/5)

医師を志す高校生・受験生を対象にオンライン座談会を開催いたします。医師のやりがいや、医師をめざしたきっかけ、勉強方法や高校時代のことなどなど…実際に医師に質問し交流してみませんか?きっとみなさんにとって貴重な経験になること間違いなしです!



医師を志すみなさんへ

奨学生募集

私たちは、学ぶみなさんの力になりたい

奨学生活動は、みなさんの医学生としての成長、医学生生活の充実にきっと役に立ちます。そして大学では学べない学びがたくさんあります。奨学生になって、学び、考え、私たちと一緒にこれからの埼玉の医療を支えていきましょう。

お申込み・お問い合わせ

埼玉民医連・医療生協さいたま
埼玉協同病院 教育研修センター

048-296-5822



貸与金額
月額80,000円

特別貸付・
入学時貸付制度
あり

返済免除制度
あり

SKYMET [https://www.skymet.jp](http://www.skymet.jp)

スカイメント 検索



コロナ禍の医療と私たち



コロナ禍の「医療崩壊」

増田 最近は自宅療養の方が亡くなられるという事例が出てきています。この病気はすごく落ち着いてる状態から、短期間で悪くなるのが特徴なんですね。

原澤 発症から6日目以降に急に悪くなると言われています。これまで血中酸素濃度にまったく

異常がなかった人が、その日のうちに人工呼吸器を使うようになつた事例もありました。新型コロナウイルス感染症は、肺の状態が悪化したり、呼吸がしくくなったりするほか、血栓などもできやすいと言われています。だから自宅療養で寝ていることが多くなると、足などに血栓ができ、それが原因で命を落とす可能性も

十分にあります。また、この病気のもうひとつ特徴に、肺の機能が悪くなつても、最後の最後まで

息苦しく感じないというのがあります。本当は酸欠状態なのに苦しくないから、保健所の人様子を聞かれても、大丈夫だと答えてしまふ。そして気がかないうちにひどくなつて、苦しすぎて救急車を呼べないという状態に。だから、自宅で医療観察していても油断はできません。

増田 日本医師会の中川会長が「すでに医療崩壊しています」と言つているほか、多くの専門家も「今感染者を減らさなかつたら、医療がなりたなくなる」といふことを強調していますが、それも理由のひとつなんですよ。入院待ちの人があたくさんいる上に、自宅療養中に急変する人も出てきているので、これ以上、感染者を増やしてはいけないと強く伝えているんですね。

原澤 さらに、具合が悪くなつて保健所に連絡しても、感染者が多くなってきていています。だからこそ、保健所のマンパワーを増やす、もっと病院に入院できるようにする、そもそも感染者の人数を減らす、ということが大事になつてくるんです。

増田 新型コロナウイルスが騒がれ出してから、1年ほどたつ



埼玉協同病院と新型コロナウイルス

新型コロナウイルスにより、世界は大きく変わった。世界の医療関係者は、その最前線で日夜戦い続けている。もちろん、埼玉協同病院も例外ではない。それでは、埼玉協同病院では、どのような取り組みを行なっているのか。増田院長と呼吸器内科の原澤医師に語っていただいた。

#31

*Message
from
the Doctor*

地域の基幹病院として果たしていく役割がある

増田 新型コロナウイルスへの対応は、都道府県が対策本部を置いて、その指示の下に各市町村自治体が対応することになります。指定感染症ですので、対策の中心になるのは保健所。対策の当初は、まさにこの保健所が司令塔になつて動いていました。だけど次第に患者さんが増えてきたので、今は、病院ごとに県から指示を受け、対応を行うことが多くなつきました。川口市では新型コロナウイルスが確認された当初、危機感を持った市長さんが川口市の基幹病院の院長を集めて、どうやって対策するかという話をしました。私たち埼玉協同病院も基幹病院として、当然、新しいウイルスに対しても大切な役割を果たしていかなければなりません。だから、当初から外来に来る発熱者や新型コロナウイルスの感染者にも、積極的に対応してきました。各職員もはじめから受け止めてくれていたと思っています。

原澤 でも「あそここの病院は新型コロナウイルスの患者を受け入れている」という噂が出ると、その病院には行けないと考える

原澤 患者さんに安心して受診してもらえるように、我々も病院内でクラスターが起きないようすごく気を遣っています。例えばうちには感染対策認定看護師がいるので、そのスタッフを中心にして防護具の着方や脱ぎ方を試行錯誤しました。それを様々な職種の現場スタッフと共有しながら、院内一丸となつて感染しないよう日々工夫しています。



医療や社会を守るために今できることとは

原澤 新型コロナウイルスの感染者数は急激に増加して第三波を迎えています。新型コロナウイルスは風邪の原因ウイルスのひとつが変化したものなので、冬場になつたら多くなるということは予想されました。また年末年始など人々会う機会が増えたことも、増加の要因のひとつかもしません。冬場は呼吸器系の感染症が増えるからそのせいか、冬場だと新型コロナウイルスが元気になるからなのか、はたまた人の接触が増えたから広まつたのか。どれとは言えないし、もしかしたら全部が組み合わさっているのかもしません。でも政府が言う通り、人の接触をなるべく減らすといふのは感染経路を断つことになりますので、それが十分できれば、だんだん収束していくことが想定されます。ただ現状では、緊急事態宣言が出ても人の出入りがさほど変わらないような気になりますよね。飲食業の方などは気の毒だと思います。僕の友人にも飲食関係のお仕事をしている人がいるんですが、自分が知つてゐる範囲だけ見ても、生活がかなり困難になつていてる人たちがいるわけです。これまでよりも、適切な医療を受けられなつたりして、生活ができなくなつたりしている人が増えてい

増田 新型コロナウイルスが騒がれてから、1年ほどたつ

て。できるだけ病院に行きたくないと受診を控える人もいます。これくらいの症状だったら我慢しようとか、薬が足りなくなつても我慢しようとして、具合が悪くなる方もいましたね。

増田 新型コロナウイルスが感染したないからと、患者を受け入れていると噂のある埼玉協同病院には行くのを控えるといふ動きは、実際にあります。でも、実は今、違つた動きが起きているんです。かかりつけの患者さんから、「自分が新型コロナウイルスになつたら、ここで診て欲しい」というご要望が出てきたんですね。これは入院できず同病院には行くのを控えるといふことで、今は、病院ごとに県から指示を受け、対応を行うことが多いなつきました。私たち埼玉協同病院も基幹病院として、司令塔になつて動いていました。だけど次第に患者さんが増えてきたので、今は、病院ごとに県から指示を受け、対応を行うことが多くなつきました。川口市では新型コロナウイルスが確認された当初、危機感を持った市長さんが川口市の基幹病院の院長を集め、どうやって対策するかという話をしました。私たち埼玉協同病院も基幹病院として、新しくウイルスに対しても大切な役割を果たしていかなければなりません。だから、当初から外来に来る発熱者や新型コロナウイルスの感染者にも、積極的に対応してきました。各職員もはじめから受け止めてくれていたと思っています。

原澤 でも「あそここの病院は新型コロナウイルスの患者を受け入れている」という噂が出ると、その病院には行けないと考える

原澤 患者さんに安心して受診してもらえるように、我々も病院内でクラスターが起きないようすごく気を遣っています。例えばうちには感染対策認定看護師がいるので、そのスタッフを中心にして防護具の着方や脱ぎ方を試行錯誤しました。それを様々な職種の現場スタッフと共有しながら、院内一丸となつて感染しないよう日々工夫しています。

